

防護用具

BACKGROUND OF THE INVENTION

本発明は、防護用具、特に一般の人々の目に触れることなく携帯し、緊急時には瞬時に臨戦用途に供することができる防護用具に関する。

従来の防護用具、特に警棒は固定長や伸縮可変長の金属性、木製、樹脂製の棒体で、これらは主に警察官や警備員等による使用を想定して造られている。

従来の警棒は警護任務用に造られたものであるため、一般の人々が自己防衛の為に携帯するには外観、重量、保持方式に問題があった。外観に於いては、固定長のものは携帯に供することは日常ありえないし、伸縮式のものでも伸縮時の全長は20数センチから30センチ近くあり、これも日常携帯するにはかなり抵抗がある。重量も500グラム以上あり、意識せずに携帯できる重量ではない。携帯方法も専用ホルダーをベルトに通して装着するか鞄に入れて持ち運ぶしかなく、ホルダーは人目に付き易く一般の人が通常の社会生活を送る上で体面状憚られるし、鞄に隠して持ち歩くのはイザとゆうときに間に合わないと持っている意味がない。使用に至っては金属棒である以上、相手の頭部を打撃した場合、死に至らしめることもある。これは逆にいえば自己防衛目的ではなく凶器として使用された場合は非常に危険なものである。

さらに、ベルト等を防護具本体とするアイデアはあったが、緊急時においてもベルトを抜き去ってしまってはズボンがずれ落ちる危惧がある。

SUMMARY OF THE INVENTION

本発明は以上のような欠点を鑑み、一般の人が自己防衛の為に人目に付かず、重量も軽く外観や携帯方法に特別な配慮を必要としないで常時携帯でき、緊急時には瞬時に自己防衛目的を達成できる防護用具を提供することを目的としている。

本発明の前記ならびにそのほかの目的と新規な特徴は次の説明を添付図面と照らし合わせて読むと、より完全に明らかになるであろう。

ただし、図面はもっぱら解説のためのものであって、本発明の技術的範囲を限定するものではない。

BRIEF DESCRIPTION OF THE DRAWINGS

FIG. 1 は本発明の第 1 の実施の形態の説明図、

FIG. 2 は本発明の第 1 の実施の形態の分解図、

FIG. 3 は本発明の第 1 の実施の形態の防護具の握り部の正面図、

FIG. 4 は本発明の第 1 の実施の形態の防護具の握り部の側面図、

FIG. 5 は本発明の第 1 の実施の形態の防護具の握り部の底面図、

FIG. 6 は FIG. 2 の 6 - 6 線に沿う断面図、

FIG. 7 は FIG. 2 の 7 - 7 線に沿う断面図、

FIG. 8 は本発明の第 1 の実施の形態の装着状態の説明図、

FIG. 9 は本発明の第 1 の実施の形態の指を掛けた状態の説明図、

FIG. 10 は本発明の第 1 の実施の形態の引抜き状態の説明図、

FIG. 11 は本発明の第 2 の実施の形態の説明図、

FIG. 12 は本発明の第 2 の実施の形態の防護具の握り部の説明図、

FIG. 13 は本発明の第 3 の実施の形態の説明図、

FIG. 14 は FIG. 13 の 14 - 14 線に沿う断面図、

FIG. 15 は本発明の第 4 の実施の形態の説明図、

FIG. 16 は本発明の第 4 の実施の形態の使用状態の説明図、

FIG. 17 は本発明の第 5 の実施の形態の説明図、

FIG. 18 は本発明の第 5 の実施の形態の使用状態の説明図、

FIG. 19 は本発明の第 6 の実施の形態の使用状態の説明図、

FIG. 20 は FIG. 19 の 20 - 20 線に沿う断面図。

DETAILED DESCRIPTION OF THE PREFERRED EMBODIMENTS

以下、図面に示す実施の形態により、本発明を詳細に説明する。

FIG.1ないしFIG.7に示す本発明の第1の実施の形態において、1は本発明の防護用具、本実施の形態ではベルトで、この防護用具としてのベルト1は、FIG.1およびFIG.2に示すように、ベルト状の防護具収納体2と、この防護具収納体2に内包状に携帯される硬靱性のある鋼製ワイヤーで形成された防護具3とで構成されている。

前記防護具収納体2は、FIG.2に示すように、鞘状に形成された防護具収納本体4と、この防護具収納本体4の着用時の裏面部位に形成された、前記防護具3を内包状に携帯し、かつ引き抜き時の摩擦抵抗を減らすことができるスリット状の引抜き部5とで構成されている。

前記防護具収納本体4は鞘状、すなわち長さ方向には前記防護具3の全長に見合った空間を中空状態に設け、厚さ方向で約3～5ミリ、好ましくは4ミリ、巾方向で8～12ミリ、好ましくは10ミリに形成されている。また、前記防護具3が引抜き時や収納時にベルトの外側の皮革を傷めないように、防護具収納本体4の内部部位に補強プレート6が埋設され、同じくワイヤー警棒先端部分に接する個所や、ベルトの中間程の個所にもベルトの型くずれ防止の為の補強プレート6が埋設されている。

前記引抜き部5の先端部には亀裂を防止するための補強目的でパッチ7を当て縫合し、引抜き部位としての他端部には前記防護具3の端部が収まり易いように、四角形状や丸形状等、本実施の形態では四角形状に皮革を切り取って格納部8を形成する。

前記防護具3は、FIG.2に示すように、硬靱性のある鋼製ワイヤーで形成された警棒本体9と、この警棒本体9の端部に、前記防護具収納体2の引抜き部5に収納時には最適状態で収納され、引抜き時には楽に引き抜きができるように回動可能に取付けられた握り部10とで構成されており、前記警棒本体9としての鋼製ワイヤーには、直径数ミリのMULTIPLE WIRE TYPE CONSTRUCTION 7×7を使用することで硬靱性を持たせている。これはワイヤーの纖維構造上最も適合した硬さとしなやかさを有する。また、全長は実用形態によって違いはあるが標準で60センチ程度とする。また、前記警棒本体9の先端部はバラケないようにプラズマ溶断加工やハンダ等で固定する。

なお、前記警棒本体9の先端部は、本実施の形態ではバラケないようにキャップ部材をカシメて固定している。

前記握り部10は、前記警棒本体9の端部に回動可能に取付けられた握り部本体11と、この握り部本体11の端部に回転可能に取付けられた、該警棒本体9を引抜くためのリング12とで構成されている。このリング12は収納時には前記防護具収納体2の内側にあって、外から見えることはない。

収納時には FIG.1 に示すように、防護具3は防護具収納体2に収納され、従来と同様にパンツに通し、使用する。

使用時には、FIG.8 ないし FIG.10 に示すように、リング12を防護具収納体2の下方に位置させ、該リング12に指を掛けて下方や前方に一気に引抜くことにより、警棒本体9は引抜き動作開始と同時に、FIG.7 に示すように、引抜き部5を分断しながら防護具収納体2の外に引き出される。すなわち、警棒本体9と防護具収納体2との間で生じる、引抜きによる強大な摩擦抵抗が、引抜き部5との接触面を分断するエネルギーに変換され、防護具収納体2を傷つけることなくスムーズに防護具3を引抜くことができる。

次に、FIG.11 ないし FIG.20 に示す本発明の異なる実施の形態について説明する。なお、これらの本発明の異なる実施の形態の説明に当って、前記本発明の第2の実施の形態と同一構成部分には同一符号を付して重複する説明を省略する。

FIG.11 および FIG.12 に示す本発明の第2の実施の形態において、前記本発明の第1の実施の形態と主に異なる点は、警棒本体9の端部に握り部10をカシメて固定した点で、このように構成した防護具3Aを用いた防護用具1Aにしても本発明の第1の実施の形態と同様の作用効果を得ることができる。

FIG.13 および FIG.14 に示す本発明の第3の実施の形態において、前記本発明の第1の実施の形態と主に異なる点は、スリット状の引抜き部5のない防護具収納本体4Aを用いた点で、このように構成した防護具収納体2Aを用いた防護用具1Bは、デザインを損ねることなく防護具3を内包状に収納することができる。

FIG.15 および FIG.16 に示す本発明の第4の実施の形態において、前記本発明の第1の実施の形態と主に異なる点は、はショルダーバックや手提げカバン13等に使用されるストラップ状に形成された防護具収納本体4Bを用いた点で、こ

のように構成した防護具収納体2Bを用いた防護用具1Cにしても本発明の第1の実施の形態と同様の作用効果を得ることができる。

FIG.17およびFIG.18に示す本発明の第5の実施の形態において、前記本発明の第3の実施の形態と主に異なる点は、はジーンズ生地や革等の厚手の生地で成形されたパンツ、本実施の形態ではジーンズ14の側部内側部位に縫い付けによって設けられた防護具収納本体4Cを用いた点で、このように構成した防護具収納体2Cを用いた防護用具1Dにしても本発明の第3の実施の形態と同様の作用効果を得ることができる。

なお、前記防護用具1Dの防護具収納本体4Cは、前記ジーンズ14の側部内側部位に一体的に形成されてもよい。

FIG.19およびFIG.20に示す本発明の第6の実施の形態において、前記本発明の第3の実施の形態と主に異なる点は、はジーンズ生地や革等の厚手の生地で成形された上着、本実施の形態ではジーンズ生地のジャケット15の裾寄り部位に一体的に設けられた防護具収納本体4Dを用いた点で、このように構成した防護具収納体2Dを用いた防護用具1Eにしても本発明の第1の実施の形態と同様の作用効果を得ることができる。

なお、前記防護用具1Eの防護具収納本体4Dは、前記ジャケット15の裾寄り部位に別体として縫い付けられ、使用されてもよい。

なお、前記本発明の異なる実施の形態では主に第1の実施の形態を基にして説明したが、本発明はこれに限らず、各実施の形態に使用された構成を組み合わせて使用しても同様な作用効果が得られる。

以上の説明から明らかなように、本発明にあっては次に列挙する効果が得られる。

(1) 防護具と、この防護具を収納することができるよう形成された、引き抜き時の摩擦抵抗を減らすことができる引抜き部を有する防護具収納体とで構成されているので、人目を憚ることなく常時携帯でき、重量、携帯方法にも特別の配慮を必要とせず、緊急時には瞬時に自己防衛体制を取ることができる。

(2) 前記(1)によって、使用に至っては暴漢を撃退する為の十分な威力を有すると共に相手が未成熟な青少年であった場合、自己を防衛する目的の達成以

上に相手を死に至らしめるような致命傷を与える危惧はないという配慮をすることができる。

(3) 前記(1)によって、デザインを損なうことなく従来と同様な美観で使用することができる。

(4) 前記(1)によって、構造が簡単であるので、容易に実施することができる。

したがって、安価に製造できる。